



「おかげさま・ありがとうー2」

「おはようございます。」（おはようございます。）

元気な声がそろって、とてもうれしいです。風邪気味の人が増えてきて、マスクの人も目立つけれども大丈夫ですか。自分たちで工夫して風にかからないように、元気に過ごせるようにがんばりましょう。

さて、今日は先生が風邪をひいてしまい、のどがとってもはれてしまって、お医者さんでのどのはれを治療したので、いつものような大きな声が出ません。後ろの方の6年生この大きさに聞こえますか。（「聞こえまあす。」という一番うしろの子の声が聞こえました。）

ありがとう。

では、今日は先週に引き続いて、「おかげ様ですありがとうー2」という話をします。

先週おかげ様の話をした後、こんなことがありました。

先週の木曜日のことです。

私は朝、西武池袋線の石神井公園という駅から朝一番のバスで下井草の手前で降りて学校へ来ています。

そのバスに乗るための停留所が、とっても寒いのです。線路下でちょうど屋根もなく建物と建物との間の途切れたところなのでそこだけすごい風、雨の日もそこだけはずぶぬれになってしまいます。そこから5メートルくらい離れると屋根があり、お店の横なので風もあまり来ません。そのうえガードレールもあるので安心です。

でも、そこまで下がってしまうと、バス停からは少し離れてしまうので、うまく列に並べないのです。

その日もいつも通り、バス停に行くとするで一人若い男の人が停留所のところに立っていました。私はその人の後ろに並びました。相変わらず風が強く、ここだけ別世界のように、寒いのです。他のバス停はそんなことないのに、ここだけは風がヒューヒュー、寒い寒い。でも仕方なくこの列に一人二人と、利用する人があとから次々に来て並んでいきます。10分くらい待つと列も少し長くなります。その頃になって、いつもの赤いバスがやってきました。寒い寒い、さあ乗ろう。

ところが、先頭の若いお兄さんが、後ろの方をちらちら見て、なかなかバスに乗ろうとしません。寒い、寒い早く乗ろうよと思って、お兄さんの見ている方を見ると、杖をついたおじいさんがガードレールにつかまって立っていました。そう言えば私が来た時にはもうそこにいたような気がします。

そうです、このおじいさんもバスを待っていたのです。でもバス停の前は寒いし、脚がちょっと不自由なのにつかまるところもないので、仕方なく離れたところで待っていたのでしょう。そして、先頭の若いお兄さんはそのことに気づいていたのです。だからおじいさんの方を見てお先にどうぞ、という合図を目でしていたようです。そのことに並んでいた人たちも、みんな気づいて、おじいさんが通れるように少しよけてくれました。それを見てこのおじいさんこういったんですよ。

「有り難いことです。ありがとうございます。おかげ様で助かります。すいませんねえ。」
ねっ。先週のお話と同じでしょ。「おかげさま。」「ありがたい。」……………。

そういう声がとっても有り難くって、「お兄さん、いいことしたねえ。ありがとう。」と思いました。他の人たちもみんなそう言いたそうな顔に見えました。

バスに乗るときの運転手さんに言う『おはようございます。』の声がいつもよりみんなはずんでいました。

寒い朝だったけれど、みんな何となくホカホカして気持ちになれました。

「何だよ、早く乗れよう。」「寒いじゃないよう。」何ちえ言う人は一人もいませんでした。

みんなはどっちだろう、「ちゃんと並ぶ場所にいないからいけないんだよ。」って思ってたんだ。どっちかな。。。。。。

お話し終わります。

(このお話の日の下校時刻、子どもたちを見送っていると何人もの子が「先生、のどだいじょうぶ？無理しちゃだめだよ。。。。。。。」と声をかけてくれました。。。。。。)

